

もど子と人婦

第七號 第拾貳卷



フーベール會發行

次 目 號 七 第 卷 二 十 第

夏の幼稚園

家庭に於ける雇人と子供

哺乳児の營養法

夏のお伽話

保育の實際

自然物の利用

室の内外

保育の一日

兒童の救急手當法

(一)

雜錄

關西行

藤井利譽

寺田精一

石塚保吉

長沼せき

膳たけ

佐藤滿壽

みどり

藤井秀旭

倉橋惣三

婦人と子ども

夏の幼稚園

第十二卷第七號

東京女子高等師範學校教授

藤井利譽

一、大人でも堪らない。

盛夏三伏の苦熱。大人でさへ堪へ切れぬ。況んや幼児をやである。幼児は案外暑さには抵抗力強く随分暑い中を平氣で走り廻はつて居るが、此の間に於ける保育者は餘程細心の注意を要すると思ふ。幼稚園が大切であるといふ一念から、暑いく臭苦しい往來を流汗淋漓、通園を敢へてせしむるが如きは如何であらうか。鍛練の必要、論はないが、ンは發達程度に合せねばならぬことも亦論がない。これを思はずして徒らに鍛練を口にするが

如きは軟弱なる植物を炎暑に曝すと同様枯死せしめずば幸である。一體春より夏にかけて幼児の發育は盛なる時期であるといふことであるが、それは彼等の生活を最も都合よからしめての上のことである、燠くが如き炎天に長時間放置したり、臭苦しい部屋に多數押し込めて置いたりしてはどんな強健な幼児でも堪つたものでない。

二、思ふ存分休養せしめよ。

幼稚園が蒙る批難の一つ、しかも最も大なる批難の一つは其の與へらるゝ刺激が餘り多過ぎると

いふことである。之が爲に神經質の、色の青ざめた、コセ／＼した人間たらしむるに至らしめ。幼児固有の活力を減耗し、天真を缺き、無邪氣な性格を失はしむることがあるといふことである。自分も幾分かしか感ずる節があるのである。幼稚園より来た兒童は我儘である、不規律である、悪い癖がある等の批評を屢々聞くのであるが、此種の弊は自分は餘り氣に止めぬ一人である。ンナことは時の進むに連れ、發達に伴ひ、自制的の生ずるに至らば自然と矯正の出来るものであると思ふからである。彼の教科の學習に興味を持たぬなどといふに至つては小學教師の方で餘程考ふべき點があると思ふ。幼稚園でやつて／＼知り抜いて居るものを復た繰返へして教へる如きことがあつては兒童の努力や興味を買ひ得ぬのは當然であらう。此の點について小學教師は今少し幼稚園の實際を知らねばならぬと思ふ。但し保育其の

法を誤り小學校教育の豫備をなすことに腐心し却つて惡結果を醸すが如きは又保育者の注意すべき所である。自分は痛切に思ふ。

「幼稚園教育は幼兒身體の健全なる發育を遂げしむることに最も大なる注意を拂ふべきである」と。此强健とは唯筋骨の良好なる發達のみでなく、全身の調利的發達、神經の結合作用の最も確かな敏活な、意地の強い、活動の盛なるものを意味するのである。此の意義よりして夏期には思ふ存分に休養せしめよと言ふのである。

三、休養は休止ではない。

活動は幼兒の天性である。職分である。幼兒活動の休止は死と睡眠とのみであらう。夏期に於ける幼兒は如何に活動せしめたが良いか。適當なる誘掖指導の下に涼風を趁ひ、綠蔭を尋ねる、休養の最良案であらう。されど這般のことは少數人士に限らるべきもので、多數は夏季休業となれば

幼兒の仕末に困るのである。

都會の比較的の上流者の子女を收容せる幼稚園は長き休暇を設けて其の間は全然家庭に任せるが得策と思はるゝが、最も此の際豫め保育の心得を家庭に指示すべきは必要である、併し都會でも中流以下の子女を預るもの、又は村落の幼稚園は必ずしもこれと同様の取扱は出来ぬ、否、しかせねば却つて良いと思ふ。

四、幼稚園を開放せよ。

兒童幼兒等の爲に學校若くは幼稚園を開放するの必要なるは平日に於ても然りであるが、特に夏季に於ては必要と思ふ。都會は勿論であるが、村落でも幼兒兒童の爲に最も適當なる運動場は缺乏して居る、或は村落には山あり、川あり、以て幼兒の遊園たり得べしと言ふものあらむ、然れど指導なき運動、補助なき遊戲の却つて幼兒に有害なる所以を思はひ、唯之を自然に放置するが如きは

吾人の忍ぶべからざるところである。夏季炎暑の時の如きは到底規則正しく日々の教育の行はるべきものではないが、幼兒は或は子守に伴はれ、或は年長兒童に従ひ、此の開放されたる遊園に來りて、或は戯れ、或は憩ひ以て十分なる快樂と休養とを得せしめ一は以て休暇中の養護を輔け、一は以て平素保有の效を定しくせぬことともなると思ふ。此の場合に於て何人か責任者のあるありて幼稚園の管理に任ずると同時に遊戯運動を指導し、時には涼しき室なり、樹蔭なりに於て面白い話を聞かせることなどは必要であらうと思ふ。故に學校又は幼稚園は常に之の施設を適當にし、特に夏季に於ては其の利用を完うすることに努めたいものである。かくの如き用意はやがて最も健全に最も敏活に働く身體と精神とを有する幼兒を作り、延ひて學校教育の眞の準備を爲すであらうと信ずる。

家庭に於ける雇人と子供

文學士 寺田精 一

一、雇人に任せてある子供

家庭に於ける雇人と子供との關係は、今更事新しく述べるまでもない問題である、けれども實際上に於ては、此問題が比較的忽にされ、思ひの外に等閑視されて居る場合が決して少くない、これが爲めに子供の家庭教育に悪結果を及ぼし、間不測の禍を來すことがあるのである。

吾人の見聞するところに依れば、多くの婦人中には、往々次ぎの如き考を以て居る人がある、子供を哺育するのは中流以下の婦人のすることであつて、殊に社會の上流に位して居る婦人などの手を下さすべきものではない、これ等のことは宜しく家の雇人等に任すべきものである。かくの如き考の起るのはその人の受けた教育が誤解せしめて

居るのか、若しくは其他のこと例へば虚榮心などの爲めに因るのであつて、親と子との深い關係や、親といひ子といふ意義を正當に解して居らぬのである。此場合に於て吾々が考へて見なければならぬのは、雇人等の人格である、因より稀れには彼等の中には、子供の親たる人より秀れて居るものもあるであらう、けれどもかくの如きは先づ例外と見るべきものであつて、多くは不健全なものである、例へば其教育が少いと、其家庭の境遇が面白くないとかいふことから、兒童を全然任せて置いて安心の出來るといふのは極少ないのである。即ち子供の哺育に對する間違つた考から、自分等よりは教育程度も低く、境遇もよくないものに、大切な子供を任して置いて、策の得たるもの

だと思つて居るのは、甚だ誤つたことであるのみならず、極めて危険なこと、いはねばならない、かくて親としての子供に對する務の盡されないと共に、かゝる親の子に往々にして社會の厄介物者となり終るのがある。

二、雇人の子供に及ぼす感化

かくの如き間違つた考を持つて居る兩親殊に母親は、決して多くあるといふのではないが、雇人等の性質等には一向無頓着であつて、彼等より子供に如何なる影響を與入るかの問題には、比較的冷淡で充分の注意を拂つて居ない人は決して珍しくはない。けれどもこれは極めて大切なことであつて、出來得る丈けの注意をしなければならぬ。雇人を使用する位の家庭に於ては、子供が兩親の傍に居る間よりも、雇人等の傍に居る間の方が長いのが普通である、従つて日常雇人等の一舉手一投足は、皆子供の經驗の對象となるのは明らか

で、其結果雇人等の性質態度が、子供に影響するところは極めて大である、されば他人を雇入るゝ場合には及ぶ丈けの注意を以て撰ばなければならぬ。吾人は子供の好ましからざる性質に於て、其兩親等には全く發見されざらぬものであつて、却つて其家庭の雇人に於て見らるゝやうなものゝあることを、時々見聞するのである。

三、雇人と子供の模倣性

性質といふ程でなくとも、一時の惡癖が雇人等に依つて養成されることは屢あることであつて、これは彼等の淺し考から其結果の如何なるものなるかも心得ずに、只一時の慰み又は戯れなどより、思ひも寄らぬ癖に入らしむことがある、若し一度癖となり終る時には、これを容易に矯正すること出來ないから、假令其癖の内容が左程悪いものでなくても、常に癖の生じないやうに心掛けてやらねばならない。而して子供は模倣性が甚だ活潑

に働くから、模倣される人の心づかないやうな些細なことまでも其對象となつて、何處で子供が見習つたのであるか怪しまれるやうなことが少なくない、況んや子供の養育に注意の足らぬ雇人等が、一時の興に任せて子供に模倣せしむるやうに務むるに於ては、これが善惡に拘らず習得さるゝことが極めて容易である。嘗て或家庭の子供が一種奇妙な顔付をして、人を笑はしむることを覚えて、それを矯正せんとするも容易に直らなかつたが、その癖の原因は何處より來たかを精しく調べたところ、其家の車夫に一人の滑稽家が居つた、面白半分に其子供に色々な滑稽な顔付をしては見せ、子供がそれをよく真似る時には、大に賞讃したから、子供は喜んで其妙な顔をするのが上手になり、人前へ出でては其顔をした、するとこれを見る人は誰れも大笑ひするから、子供は益得意になつて遂には容易に取去ることの出来ない癖となつ

て、兩親を困らしたといふことである。かく其教へる方では何等の考はない、只一時興に乗じて行ふのであるが、子供にはそれが中々固い癖となり習慣となるのである、のみならず子供は一時の賞讃などに心を奪はれ、且つ其事の眞實の善惡を判断する丈けの力がないから、其儘を習得して却つて喜んで居るのである。

四、子供をだしに使ふ雇人

場合に依つては雇人等が、自分の或慾望を満足ん爲めに、子供を所謂だしにすることが少なくない。即ち自分一人では家の用事も無いのに、外へ出ることを許なれないから、子供の守といふ名義で自分の目的とするところへ行つて、爲めに子供に悪影響を及ぼすことがある。尤も其行く先が只普通のところであつて、別段に論ずべき必要もないところならばよいけれども、往々好ましがらざるところへ行く手段とされることがある。例へば

或家の書生が六歳になる子供を遊廓へ連れて行つて遊興をしたといふ實話を聞いたが、正に此種の注意すべき一つの場合である。かくの如き弊害のある場所でもなくも、不良なる刺戟を與ふる場所へ、無汚の子供を雇人が自分の爲めにするところより連れて行く場合が、實際上珍らしくない事實である。

五、子供は何故に雇人につくか、

人は誰でも自分の意思を通さうといふ念があつて、若し自分の思ふ通りになれば満足するが、それでないといふ不満を感じるのである、此關係は子供に於て特に著しく且つ露骨に現はれて來る、何でも自分の氣儘に出来るものだと思ふて居る、殊に極幼少なものになると、自分のなして居ることについて、小言をいはれたり、叱られたりするところを、不思議に思つて居る場合が少なくない、勿論其ことの善惡といふことは多少知られても、多

くは叱られるから止めやう位の心で居るのが常である。かくの如くであるから子供が活潑に飛び回る時には、なるべく自分の思ふやうになる方面へ發展しやうとする、即ち叱る人の居ないところで、自由に遊びたいのである。これが子供をして雇人に接近せしむる一つの原因である。いふまでもなく雇人は家の人々から命せらるゝがまゝに使役されて居る、又彼等が其家の子供に對する場合には、多少悪いことをしても家の人々の如くに叱責もしない、幾分か叱責するにしても大に控目にした叱責である、かくて子供は此自分を餘り叱らない、比較的容易に人の自由になつて居る雇人の方へ、發展して行かうと自然に傾いて來る、如何にも雇人等は悉く自分の勢力範圍でもあるやうに思つて彼等には、接近し易くなるのは自然である、両親の傍で鹿爪らしくして居るよりは、彼等を對手にして氣儘にして遊びたいのである。従つて

彼等の前に於ては、到底兩親の前では出来ないやうなことをもなし、又多少よくないことをしても反抗されないから、益々其悪い方向へ進んで行くのである。されば彼等雇人等の中に好まじからぬものがあると、日常の接近から其悪い性質の感化を受けるのみでなく、時には却つて子供を利用して益々不良の方向へ引き入れつゝ、自分の満足をも得、慾望をも達せんとすることが稀れではない。かくの如きことは極幼少年ものに於てよりも、相當の年齢に達せるものに於て、殊に多く見聞されるところである。

六、雇人から起きるいろいろな弊

かくの如く雇人を自由にするといふ考へから、又子供に責任逃れの念を興ふることがある。即ち若し自分が失策し誤つたことをしたならば、これが責任を自分の儘になる雇人に歸して、自分は兩親の叱責を逃れんとする、好まじからぬ心を惹起

さしむることがある。雇人の方に於ても子供の叱らるゝが可哀想と思つて、一時の不良行爲を隠してやることや、又は子供にかれこれこはるゝのを恐れて、只子供のするがまゝに放任して、更にそれに因つて來るべき結果などには顧慮しないといふことも有り勝ちである。而して雇人等の中には時々不良のものがあつて、自分の仕損じたことを其儘に云へば大に叱責されるから、それを避けんが爲めに自分が守して居る子供の仕損じとして、一時を繕はんとするが如きものもある。これ等の事實が其子供に及ぼす弊害は、殊更に述ぶるまでもないことであるが、雇人と子供との關係を、日常よく注意して觀察しなければ、看過される場合が多く、従つて其害の甚だしく進んだ頃に至つて初めて發見され、もはや容易に回復することの出來ないやうな結果に到達することが屢あるのである。

七、夏家から何故不良少年が出るか

所謂良家の家庭とも見られる、内より、往々にして思はざる不良行爲者を輩出することがあるが、これには固より種々なる原因があつて、決して一概にいふことは出来ないけれども、かゝる家庭の子供が不良行爲に入る第一歩が、實に此雇人に依つて與へられたる影響なることが少なくない、恰も子供の日常に於て其交る朋友に就いて充分の注意をしなければならぬと同じやうに、家庭内に於ける雇人に對する用意を等閑視してはならない、即ち雇人を雇入るゝことを極めて單純に考へて、只人を雇入れて家庭の用事に使役すればよいといふやうに、淺薄な考察のみで彼等を採用して安んじて居つてはならない。

八、雇人を使ふ家人の心掛け

尙家庭の雇人と子供との間接の關係で忘れてならないことは、家人が雇人を使役する心掛けであ

る。相當の賃錢を仕拂つて使ふのであるから、只思ふやうに使つてよいやうなもの、家人の彼等に對する態度はやがて、子供に依つて模倣されると共に、又苟も最初に家族以外の他人との關係を知らしむるものであるから、此點の顧慮は僅このこと、のやうであるが、忽にしてならないことの一つである。子供は何事も年長者のなすことをよいことと考へてそれを真似るから、雇人などを親切げなく使用する家庭の子供と、思遣りを以て使用する家庭の子供とは、其間に自ら相違が出来て、何等家庭に關係のない他人に對しても、雇人に對するやうな心持で對するから、善良な結果を來すことのあると共に、往々思はざる弊害の伴うて來ることもあると觀なければならぬ。即ち温かな美はしい眞情の養成は、先づかくの如きことにも注意しなければ出来ない道理である。

哺乳兒の營養法(二)

醫學士 石塚 保吉

人工營養法

人工營養が天然營養に比して遙かに劣つて居るといふことは、前回にも略ぼ申上げて置きました。が、あれだけの説明では、多少物足りぬ感じも致しますので、もう少し詳しく申上げて置き度いと思ひます。今、人工營養中の主となつて居る牛乳を、天然營養たる人乳に比較しますと、

第一、人間と牛と種族が違つて居ります爲に、牛乳は根本に於いて、人間の子供に適當して居ないといふ點であります。

第二、牛乳は取扱に多くの人の手を經て來ますから、其の道中に微菌の爲めに穢されることが多いのであります。又夫れを消毒する爲めに生物たる乳を無生物にして仕まうといふ大なる缺點があ

ります。即ち消毒の爲めに乳が本來有して居る消化素であるとか其他の生活素を殺してしまつて、餘り益のないものが子供に吞ませられて居る譯であります。

第三、其の内に含む化學的成分が違つて居ります。即ち脂肪、蛋白質、糖分の如き成分の配合が異ふし、又同じ蛋白質にしても人乳から採れる蛋白質と、牛乳から採れる蛋白質とは其の質に於いて異つて居ります。極く簡單にこれを実験するには、人乳と牛乳とを二つの器物に入れて、これに少量の醋酸を投するのであります。さうすると、人乳の方は極く細かな粉のように凝固し、牛乳の方は大きく凝結して仕まいます。大きく結合して仕まへばそれだけ消化が悪い譯であります。

かういふいろ／＼な缺點があるのですから、出来るだけはこれを避けて人乳を用ゐるようになければなりません。けれども絶対に排斥してしまふ譯にはゆかないので、天然營養のとりことの出ない場合には、どうしてもこれを用ゐるより外のことの出ないかと云ふことに就いては、先回にも申述べて置きますが、第一、乳首に變化があつて、大きいとか小さいとかして、子供が乳を吸ふことの出ない場合、第二にはお乳が出て、母乳に脚氣、熱病其の他の傳染病のある場合等であります。かういふ障害のある場合は止むを得ませんから人工營養を行ふのであります、今少しく其方法に就いて御話して見ませう。

牛乳の種類

人工營養に用ふる材料には、牛乳、コンデンスミルク、ミルクフード、ヒギヤマ、エンフアンチ

ナ等のいろ／＼の代用品がありますけれども、就中、牛乳が一番廣く行はれて居まして、其の効力も他に比して多いのであります。

單に牛乳と云ひましても、これを二種に區別せなければなりません。

一、青草で養はれて居る牛から採つたもの、
二、干草、豆、胡麻等で養はれて居る牛から採つたものとの二種であります。この二つの間には非常なる相違がありまして、青草で養はれて居る方の乳であります。動もすれば子供に消化不良を起し易いので、子供の營養品としては非常に危険なものであります。干草で養はれて居る方は先づこの恐れがありません。西洋ではキンデルミルクと云つて、特に子供に吞ます牛乳が出来て居りますが、これは最も健康な牛を撰んで、豆や胡麻等の食物で養ひ、時々獸醫が健康診断をする。かうして搾つた牛乳でありますから、育児用と

しては非常に理想的でありまするけれども、之には分隨費用もかなり又之乳汁分泌の量も少ないので従つて價も非常に高くなりますから日本で餘り多く造つて居らぬ様です。

牛乳の用ゐる方

人工營養として牛乳を用ゐるようとするには、牛乳の有つて居るいろ／＼な短所や、缺點を先づ他の方法に依つて補つて人間の乳に近いように改造する必要があります。

第一の缺點たる種族間の相違を改めるといふことに就いては、吾々の知識の程度にてはどうにも手のつけようがないので、これを根本から改造しようといふことは到底不可能の事でありまするから、之の點は仕方がありません。

第二の缺點即ち微菌によつて不淨にされるといふことは、吾々の注意によつて或る點までは之を除くことが出来るものですから、これは是非とも

行はなければなりません。先づ牛乳及びそれに用ゐる器具を消毒するといふことであります。一般の人は牛乳の消毒と云へば、たゞ煮さへすれば十分であつて、極く簡單な事のように思つて居りませぬけれども、なかく／＼さう簡單なものではありません。

第一に理想的方法としては、牛の乳房を消毒して置いて、消毒した搾取人の手によつて消毒した器具の中へ搾り取つて、直ぐこれを子供に與へるのであります。さうすれば、子供が母親の乳から直接に吸ふと同じ譯で微菌混入の恐もなく且つ生きた乳を吞ます事が出来、普通には出来ぬ方法であります。

第二には、薬品で消毒する方法であります、これも實際には行はれ難いことで、薬の入れ方が多ければ乳の質が全く他の物に變じてしまつて、反つて有害なものになり、少なければ無効である

といふやうな有様でありますから、先づ一般良いのは、

第三の熱氣消毒であります。これは現今一般に行はれて居る方法でありますが、然しこれも中々六ヶしいのでありまして、成る程、細菌を殺すだけの事は十分完全して居りますが、それと同時に他の生活素までも殺して仕まう弊を免れないのであります。

近來は此の缺點を除く爲めに、低温消毒といふことが行はれて居ります。これは攝氏六十度乃至六十二度の熱で一時間位消毒する。この方法は牛乳の細菌を殺して、生活素の一分部を助けることが出来、比較的良い仕方でありませう。然しこれも大病院であるとか其の他大學の様な處では出来ませうけれども、一般の家庭では到底行はれぬ事でありませう。

牛乳の煮方

一般の家庭に困難な方法は別として、極く普通な方法は矢張り煮て消毒することでありませう。けれども、消毒々々と云つて無暗と熱を加へ、而も永く煮さへすれば消毒が出来たと云つて安心して居るのは、全く意味のないことでありませう。餘り長く強度の熱に當て、置きますと、熱の爲めに乳の成分が變化して、其の爲めに消化不良を起すばかりでなく、營養としても甚だ價値なきものとなるものであります。

通例はビン共に湯に入れて煮立つてから十分位経てば、それで十分であります。若し牛乳屋の消毒が信用できますれば、哺乳器だけを消毒して牛乳には熱を加へない方がいゝのであります。又、生の乳をとつて家で消毒するのも一の方法であります。

乳ばかりが完全に消毒されて居ましても、器具の消毒が行き届いて居りませんと、千慮の一失であります。

何の効もなくなつて仕まう。乳と器具とは相俟つて消毒の宜しきを得るようにせなければなりません。

硝子類の熱に堪え得るものは熱湯で消毒するのが良法でありますし、ゴムのような物なれば五十倍の重曹水につけて置いて、使ふ時に水道の水か湯で洗つて使用するといふようにするのが便法であります。

牛乳の稀釋法

第三の缺點としては牛乳と人乳とは化學的成分が異つて居りますから、これを人間の乳に近いように變へなければならぬのであります。牛乳と人乳との重なる差異は何處にあるかと申しますと、牛乳は人乳に比して、蛋白質が多くて、糖分が少いこととあります。これを先づ改めなければなりません。即ち水をうめて蛋白質を薄くし、乳糖を加へて糖分を補ふのであります。其のうめ方には

大體四通りあります。次の表は其の割合であります。例へば第一の牛乳一に對して水三と云ふ稀釋法を「四分の一乳」と申しまして全量の四分の一丈けが牛乳である事を示して居るのであります。これに準ずるのであります。

牛乳	一	水	三		1/4	乳
同	一	水	二		1/3	乳
同	一	水	一		1/2	乳
同	二	水	一		2/3	乳
同	一	水	〇		全	乳

これに適當なる乳糖を加へて人乳類似のものを作るのであります。今ホイブネル氏の考案になる、人工營養品としての御乳の作り方を申しますれば、

(1) 三分の一乳

牛乳	三五〇グラム
燕麥汁	六五〇グラム
乳糖	五三グラム

(2) 二分の一乳

牛乳 五〇〇グラム

燕麥汁 五〇〇グラム

糖 五〇グラム

(3) 三分の二乳

牛乳 六五〇グラム

燕麥汁 三五〇グラム

糖 四三グラム

我國では、燕麥汁に代ふるに重湯を用ゐて差支なき事と信じます。

子供の年齢と牛乳の分量

以上説明しましたように消毒も、稀釋法も適當に出来ましたならば、これを大體次の標準によつて、年齢の少い子供には薄い乳を吞ませ、だんくと濃くして行くのであります。

1/4 — 生後二週間の終まで

1/3 — 第三週の初めから二ヶ月の終まで

1/2 — 三ヶ月の初めから四ヶ月の終まで

2/3 — 五ヶ月の初めから六ヶ月の終まで

全乳 — 七ヶ月の初めから

これを使ふにも、時間と一度の量と回数とを、適當に定めて置くことが必要であります。

時間は大體、三時間位の経過を置き、分量は前號に掲げて置きました、子供の胃の大きさを標準とし、回数は最初八回位から、六ヶ月目頃迄に五回位に減らして行くようにするのであります。

牛乳に就いての心得は、大體上に述べて來ました通りですが、今之れを表にして大凡の標準を示して見ますれば次の如くです。

生後	稀釋	一日	回数	一回
1週	四分	30	8	240
2週	五分	50	8	400
3週	三分	70	8	560
4週	二分	80	8	640
11月	全乳	100	8	800

110	三月	二	125	×	7	=	875
128	四月	二	150	×	6	=	900
140	五月	三	175	×	6	=	1050
160	六月	二	200	×	5	=	1000
180	七月	全					
200	八月	乳					

練乳の使い方

牛乳に次ぐ人工營養法は練乳であります。練乳は牛乳に比して更らに劣つて居ることは勿論であります。けれども山間僻地で牛乳に乏しく、思ふように選擇も出来ないとか、或は經濟上の關係で牛乳を使ふことの出来ない場合、又は瀛車や瀛船に乗り組んで居りますような時は、動もすると腐敗した牛乳を知らずに呑んで胃腸を害ふといふ場合も往々にある事ですから、營養の力から云へば落ちて居りますけれども、前記の如き場合又は腸胃の弱い人で多量の脂肪に堪へぬ人などは寧ろ練乳を用ゐる方がいゝのであります。

其のうめ方は人々によつていろいろありまするが、私の用ゐて居る方法は、

- 第一週 二十倍 第二週 十九倍
- 第三週 十八倍 第四週 十七倍
- 第二ヶ月 十六倍 第三ヶ月 十五倍
- 第四ヶ月 十四倍 第五ヶ月 十三倍
- 第六ヶ月 十二倍 第七ヶ月 十一倍
- 第八ヶ月以下 十倍

これに四瓦から七瓦までの砂糖を加へて置くのであります。

コンデンスミルクには、いろいろの種類がありますけれども、就中、亞米利加のホーデン會社製の鷲印が一番いいので、其の成分も一定して居りますから安心して使ふことが出来ます。

其の他種々な代用品がありますけれども、主なるものは以上の二種でありますから其の他に就いては、申上げる必要もないことと思ひます。日本ではおもゆなども代用營養物として決して悪くはないのであります。

夏のお伽譚

長沼せき子

蛙のお稽古

太郎さんの家のお庭の隅に、小さい水溜りがありまして、其傍に、赤ちやんと青ちやんと云ふ兄弟と、お母さんとが住んで居る、蛙の家がありました。

赤ちやんも、青ちやんも、やつと此間、オタマシヤクシから、蛙になつた計りで、まだ飛んで歩く事も、水の中を泳ぎ廻る事も、出来ないものですから、毎日お母さんが家の外に連れて出まして『さア、飛ぶお稽古をしてあげますから、お母さんの通りにするんですよ』と仰つてわ「ピヨンと飛び上つて見せるのです。すると青ちやんも、赤ちやんも、お母さんの様にピヨンと飛んで見るので

すが、矢張りお母さんの様に上手には出来ませんから、赤ちやんわ『僕お母さんの様に飛べないんですもの、つまらないなア』と云いますと『段々上手になりますよ、さア、も一度飛んで御覽！、ソラお手をも少し縮めるんですよ』と、お母さんが又教へて下さるので、赤ちんも、青ちやんも、一生懸命お稽古致しましたから、ずん／＼上手になつて行くのです。

すると此度わ泳ぎの稽古を初めまして、初めわ岸の方でポチャ／＼して居たのですけれど、これもお母さんに教わつて、ドボンと水の中にく／＼つてわ、スーッと向ふ岸に泳ぎつく事まで覚えてしまいました。

ある日お母さんわ、兄弟を呼んで『赤ちやんも

青ちやんも、飛ぶ事も泳ぐ事も大變上手になつたから、もう遠くへ行つても好いのですけれど、お母さんがいつも云うて居る事は忘れてわなりませんよ』と申渡されました。

さア兄弟は嬉しくつて堪ません『嬉しいな〜、お母さん遠くのお外にも、こんな水溜りがありますの？』ときき、ますと、お母さんは『エ、ありますとも〜、この水溜りを幾つとも〜集めたよりも、もつと大きいお池つて云ふ水溜りがありますよ、そこにわ太郎さんのお舟も浮いてますし、美しい金魚さんも澤山住んで居るんですよ』と、仰いました、青ちやんは目をクルクルつと廻しながら『お母さん僕お舟と泳ぎつこしたつて敗けませんよ、金魚さんとだつて敗けませんねえ』と云いましたら、赤ちやんも『僕だつて敗けませんねえ』と云つて、兄弟はすぐとお母さんに御暇して、喜び勇んでピョン〜飛び立つて行きまし

たけれど、赤ちやんも、青ちやんも外へ出たのは初めてなものですから、あつちを眺めたり、こつちに立寄つたりして、お庭の中程迄飛んで行つた頃に、もうそろ〜くたびれてきました、赤ちやんわ『青ちやん僕もう飛べなくなつたの、お池つてまだ遠いのかしら？』つて云いますので、青ちやんは、赤ちやん弱虫だなア、僕だつて疲れたんだけれど、いつもお母さんは我慢すると強くなれるつて仰るだろう、だから僕我慢するの、ね、もう少し休んで又飛んで行きませうよ』つて赤ちやんを助けながら、石の上へ暫く休んで、又出かけたので、とう〜お池の傍に来てしまいました。兄弟はもう疲れも何も忘れてしまつて『アツ大きなお池だねえ、お舟が一人で動いてますよ、ソラ此方へ来る、面白い〜』と見とれて居ましたが、兄弟は相談して『金魚さん、金魚さん、私達も這入つて遊んでも好いでせうか』ときき、ますと、尾

鰭をヒラ／＼振りながら、金魚がみんな出て来て、『蛙さんか、よく来ましたね、さ、早く這入つてお遊びなさい、ホラこゝが一番深いんですよ、氣をつけてね』つて云ひましたので、兄弟はすぐと、ドボンと這入つてスツスツと泳ぎ初めました、これを珍らし相に眺めて居ました金魚達は『ヤア蛙さんは泳ぎが上手ですね、じやみんな泳ぎつこしませう、ホラー、二ツ三！』泳ぎつこが初まるやら、蓮の葉のお舟でかけつこしたり、金魚の家で遊んだりしてましたが、それにもあきた赤ちやんと青ちやんは、『金魚さん、ホラあそこに浮いてるお舟ね、僕あれに乗つて見度いの、つて云いましたら、金魚は一寸考へて『もう太郎さんがお歸りの時かも知れませんが、それ迄お乗んなさい、私達動かして上げますから』つて、すぐに飛いて呉れましたから、兄弟は大喜びでビヨンと飛びのりますと、金魚は大きい頭の先で、お舟をス

ツと走らせて呉れるのです、他の金魚は、赤と白に絞つた鰭を、旗の様にヒラ／＼動かしながら、お舟を圍んで進みます、兄弟はもう何も彼も忘れて『日本海軍萬歳！お池の金魚さん萬歳！』と有り丈け大きい聲で叫びましたとたん、『ヤア蛙の舟乗り面白いナ／＼』つて云ふ太郎さんの聲に、ビックリしてドボンと水に這入つて、又ソイツと首を出して見ましたら、ニコ／＼御覽になつていらしたお日様も、西の山にお入りになつた後でしたので、兄弟はくり返し／＼金魚に御禮を云うて、やがてもと来た途をビヨン／＼／＼大急ぎで家へ歸つて來したら、お母さんはいつもの様にニッコリして抱き占て下さいましたとき。

螢のいくさ

むかしお日様が、初夏の森の上をニコ／＼笑いながら、いつもの様にお通りになりますと『ギャ

『くく』何の聲ともつかぬ音が、風に乗つて、木の間を縫うて行くのです、お日様は直ぐとそれをお呼び止めになりました『コラ、お前達は一體何の聲なのか、そして何處へ何しに行くのか』と、おきゝになりました。すると其聲は風の上からヒョイと飛びおりて『ハイ、私共は螢の聲で御座いました、何の用事か知りませんが、これから螢光殿迄参ります處で御座います』と、云ひながら、又ヒラリと風の上に乗つて、ガヤ／＼急いで森の奥の方へ飛んで行つてしまいました。

お日様は不思議な事だと思ひながら、後を見送つてお出でになりますと、又さつきと同じ様な聲が、走つて行きますから、『コラ、螢の聲まで』と、此度はすぐと用事を御尋ねになりました。『コレは折角の御尋ねで御座いますが、私にも全體何の御用なのか解りません、只此處からすゝと先きの小川の邊りに、私共の持主の螢さん達が

勢集まつて、ガヤ／＼申して居られますので、其ガヤ／＼の私共は、螢光殿迄ガヤ／＼注進して参らねばならないので御座います』と、口早やに云いますので、『オ、そりや御苦勞々々』と聲に別れて、相變らずニコ／＼四方を照しながら、やがて森を通り抜けた、小川の上に来て見ますと、成程、幾萬の螢が青々と草の茂つた兩岸に集つて、赤い頭を振り立て、ガヤ／＼さわいて居るので

お日様は、成程、夏が来たので光を貰いに行くんだナ、それにしても一體何をさわいて居るんだらう』と、つく／＼御覧になりますと、これはまた一方の岸には體の大きい羽の黒光りする、鬚の長い、見るから立派な螢共が堂々と陣を張つて、對岸を見詰めて居るのです。又一方の岸には、體は小さく、羽も汚れては居りますが、丈夫な頭を行儀よく並べた螢共が限りもなく對陣して居る

のです。お日様は面白い事に思いながら、お空の上からち―つと耳を澄してお聞きになりますと、それは大變な事を云つて居るのです。

まづ小さい方の一匹が『泥水だつて、お米の取れる田の岸で生れた平氏螢だもの、一番強いに定まつてます』と、云いますと『銀の砂の上を、水晶の様な水が流れる川岸で生れた源氏螢に勝てるものがありますか』と、大きい體を揺りながら一匹が申します『其通々々々、人間の源氏も平氏を滅ぼしたんですもの』と、他の一匹が合槌を打ちます。

すると又、一匹の小さいのが『源氏も一度は平氏に敗けました、體計り大きい弱虫は、何の役に立ちません』と云いますのをきくと、又一匹の『小さい羽ぢや飛べません』と手をうつて云いますので、とうとう『じや戦をしませう』『面白い々々々』、『賛成々々』と又ガヤ―と初めますと、平

氏の大將が『よしッ、戦さ々々！我軍氣を付けッ』と小さい體をピンとそらせました。

大きい源氏も敗けては居りません『よしッ、さア、空軍進めッ』と、今にも川を飛び越えて入り亂れ様としました時、お日様は不意に『コラ―螢共待てッ』と凜とした聲でお呼び止めになりましたから、今迄さわぎ立つた螢共も、ハッとお空を見上げますとお日様の金の冠りがキラ―と目に映りましたので『これはお日様で御座いましたか、私共は種々な事情から、是非戦さをする事となりましたのですから、どうか暫くの間御免下さいませ』と頼みました。けれどお日様は『オ、よし―戦さがしたくば明晩ゆつくりさせてやるから夕方迄に螢光殿に集まつたらよからう』と、仰つたので、螢共も仕方がありません、其ままズロ―お家へ引上げて、明晩を待つて居りました。やがて其日も暮れて、翌日お日様が西の山に靜

かにお這入りになりますと、待ちあぐんだ螢共は『さア、今夜こそ戦さをして勝たなきやならん』つて、彼方からも此方からも宙を飛んで行きましたから、見る間に御殿の前は眞黒な螢だうづまつてしまいましたと。御門がギューツと開いて、四方に輝く螢光の玉をお持ちになつた、お姫様が御出ましになつて『オ、みんなよく來ました、私は螢光姫と云ふ者です、きのふの事はお日様からすつかりぎゝました、そして戦さをさして上げ様とも思ひましたが、其前にお前達に渡す丈けの光りを分けて上げ様と思ふのだが……』と、やさしいし、かも凜とした御聲が、みんなの上に響き渡りますと、螢共は云ひ合せた様に『アツお姫様、誠に有りがたう御座います、どうか是非光りをお分け下さいませ』と願いましたから、お姫様はニッコリして『それではみんなで、森の奥の谷底へ行つて、其處に祕藏である瓶のどれでも取つてお出で』と

仰いました。

そこで螢共は大喜びで、森の奥さして飛んで行きますと、御姫様の御話し通り、同じ色同じ形、同じ大きさの瓶に水が一バイ這入つて其處に並んで居りましたから、源氏組も平氏組も、すぐと其一ツを取つて、ヤツホツホ、ヤツホツホと、かけ聲勇ましく歸つて參りました。お姫様はまぢかねて『御苦労でしたそれでは、其蓋をお取り！』と仰つて、お手に持つた螢光を、眞中からお割りになつて、二つの瓶の中にドブンとおなげ込みになりましたら、今迄晝の様に明るかつたのが、急に眞暗になつてしまいました。

するとお姫様は『さア、はやくみんな此瓶に近寄つて、中の水をお飲み！』と仰いましたので、螢共は代る代る『ありがたう御座います』と、御禮を云つてはチウ／＼水を飲んで歸りますと、不思議！今迄眞黒かつた體からピカリ、見事な光り

がさすのです、吃驚して他の方を見ますと、あつちでもピカリ！こつちでもピカリ！ピカリ！ピカリ！段々光りは多くなつて、やがて水のつきると同時に、先刻の通りに明るさになつて、御姫様はニコ／＼とみんなを眺めて居らつしやいました。そして『みんなよくお聞き！お約束通り光りは分けて上げましたが、お前達はもう今晚から其光りであちら、こちらを照して歩いて、可愛い坊ちやん方や、嬢ちやん方を喜ばせて上げねばなりませんよ、解りましたか、それからお前達戦さがし度いのなら、其光りを私に返してそれからするのも好いでせう、さア、するんなら早くなさい』と仰いました。またしが、螢共はもう嬉しくつて、戦さなどは最早忘れてしまつて一刻も早く飛び廻つて見度いのです、ですから聲を揃へて『お姫様ようく解りました、もう決して戦さなどは致しません、みんな仲よく遊びます』と、申上りましたので、お姫様は

さも御満足相に、『オ、よく云いました、それでこそ暗を照す螢共です、源氏螢は光りは大きいのが少ないし、平氏螢は数は多いが光りは小さいが、両方共みんな集まれば、何方も同じ光りなのですから同じ様に強いです、サア、みんな仲好くつてお出で』と重ねて仰いますのを『ありがたう御座います、さよなら』と一齊に御禮をして、やがて喜び勇んで飛び立ちましたら、其また體の軽い事！大きな森も、廣い野原も、谷も川も、暖く中に飛び越えて、いつか各自の方向に、暗から暗を照しながらフワリ／＼と流れる様に飛んで行かれるのです。そして百年経つた夏の夜も、千年経つたいつ迄も源氏螢も平氏螢も、仲よく暗の夜を照す事となつたのです。

かたつむり角振り分けよ須磨明石

保 育 の 實 際

自然物の利用

大阪江戸堀幼稚園 膳 た け

私の幼稚園で自然物を保育上に利用し始めましたから、もう二十年にもなります。子供をどうにかして出来るだけ楽しく愉快に遊ばせることが出来るようにと、いろいろ考へました末に、學校の庭園の一部を特に幼児の遊戯場に借り受けまして、雨天ならざる限りは、其處に出して遊ばせるようにして來ました。その爲めには種々の草花を培養して、其の發育の状態を観察せしめ、自然に對する興味を養ふとか、或は落葉や小枝等の廢物を集めて、種々模凝品を作つて、幼児の構成的想像力を養成するように努めました。これが本園で自然物利用の基礎となつて來たのであります。こ

れを始めましてからは、從來室内で規則正しい思物はかりで保育せられて居ました時代よりは、幼児はどんなに愉快に楽しく遊ぶようになったか知れません。

斯うして、四十二年の六月に園舎が新築されましてからは、諸般の設備も稍整頓して來まして、室内室外の保育も、共に昔日の比ではありませんけれども、然し當市のやうな人家の稠密な都會では、兒童はどうしても自然物に接する機會が少いのでありますから、せめては幼稚園に於てなりとも其の機會を與ふる事が必要であらうと、切に感じましたので、一層植物の培養に努めて居ります。そして落葉や果實などを拾ひ集めて遊んで居ります間に、自然と造化の妙味を會得せしめるように努めて居ります。

現今、幼児が戶外で遊んで居ります。有様を少し御話いたしますると、花園の邊りや松山の側で嬉々として戯れながら、木の葉や花弁を拾ひ集めますと、直ぐにそれを種々な物に擬し、或は蝸牛等の小虫を見出しますと、直ぐに砂で家を作つて、其の虫を主人公に擬するとか、或は枯葉を敷いて褥にしましたり、小枝を立て、家の周圍に柵を作るといふやうな、如何にもあむけない遊をして居ります。幼児は其の虫を扱ふことが非常に親切で、叮嚀で、恰度お友達でも遇するように思はれます。又或る時は、歌を歌いながら飛び來る蝶を追ふとか、小石又は果實を集めて、小川や池の周圍を飾るとか、或は木の葉を見ればもう魚に擬し、笹の葉を見れば舟にして、松葉はその權とされて居ます。雑木の小枝は築山の背景や林等にされて居まして、其の利用の敏捷にして想像の巧妙なることは、逆も成人の及ぶ處ではありません。子供は成

人の師なり」と云ふ格言の眞意が常に味はれて來まして、その度には尠からぬ感謝を幼児に捧げて居ります。

自然物材料の蒐集に就きましたは、初めの間は態々遠く郊外へ出て探つて來ましたけれども、此頃は幼児の家庭でも、餘程其の趣味を感じて來られまして、御家族の旅行や郊外散歩などの折に採集して來られましたものを、御子様を持たせて御寄こしになりますし、又私共の旅行しました時は、必ず氣附いたものを土産に持つて來ましたり、又、當園の自然物利用の實況を參觀されました人々から、いろ／＼の寄贈などがありまして、今では餘り其の材料に不足するといふやうな事はありません。終りに目下利用して居ります自然物の種類を御參考までに申上げて置き度いと思ひます。

目下利用せる自然物の種類

圓形木片大中小細小四種(以上ハ試験管立チ作りシ際ニク
リメキタル廢物ナルカ中央ニ穴

アル爲種々ニ利用シテ面白ク種
ミ方排ヘ方何レニモ使用セリ

檜の實 大 小 二種(積ミ方排ヘ方材料トス)

茶 の 實(同上)

梧 桐 の 實(聚キ方ニ使用シ又ハ豆ノ代用ニ供ス)

同 莢 (ポート又ハ籠ヲ作ル)

石 黒白石伊豫産 五色石紀州産 (積ミ方排ヘ方ノ材料トス)

貝殻 大中小 其他數種(積ミ方排ヘ方ノ其他マ、事遊ビノ皿トナス)

ユウ カリ ノ ミ(積ミ方及ヒ排ヘ方材料トス)

枳 檀 の 實(積ミ方排ヘ方ノ材料トス)

藤 の 實(同上)

豆 種 々(同上又自由遊ビノ際ニおほじきニ用ユ)

蠶 豆 莢(ポート又ハ籠ヲ作ル)

夏 藤 の 莢(コレハ其形状刀ニヨク似タルチ以テ端午ノ節旬ノ際ニハ必ス大刀小刀ニ使用ス)

砂 書 普通ノ砂 (ウス糊ヲ筆ニツク臺紙ノ上ニ自由ニ描カシメ其上ニ砂ヲフ)

リカケ后コレヲ吹クハ糊ノ部分ノミ残リテ他ハ悉ク飛散ス面白キ遊ナリ

松の實 「俗に松かさ」と云ふ (コレバ種々ナルモノヲ挿入レテ遊ブ幼兒ノ挿入ノ仕方ニテカナリ面白キ遊ナリ)

自然物貼付(種々ナル木葉又ハ秋期紅葉ノ際採リ來リテ糊ニテ財付ス普通ノ貼り紙ト同一ナリ)

押葉押草(同上)

松杉檜其他の小枝は廢物の圓形木片に挿入れて積み方の際周圍の裝飾に使用する

糊土細工の燒物(最幼ノ組ノ排ヘ方ニ用ユ庭園ヲ作リコレヲ燒物ニシタルモノ)

室の内外

神戸幼稚園保母 佐藤 満 壽

從來幼稚園で使用されて居ます玩具は、重にフレールの恩物で御座いまして、普通家庭で用ゐられて居る様な玩具は餘り御座いません、フレールの恩物の組織的練習のもの、御座いまして、一二を除くほかは出來上つたものとしては御座いません、大抵此等の恩物を基本として種々の玩具が造られたので御座いますから、いはば凡ての

玩具の基礎で御座います、恩物は練習的玩具として至極結構で御座いますが、然し模倣性の盛な幼稚園時期に於ましては、観察も必要で御座いますし、模倣も必要で御座いますから、只恩物のみではまだ充分でない様に存じます。幼稚園では是非恩物のほかに出来上つた所の観察的玩具なり、模倣遊嬉に用ゐる模倣的玩具を備へておく必要が有ると存じます、然し之を完全に致さうと思へば随分經費を要する事では御座いますし、又場所の關係も御座いますから、何れの幼稚園でも使用するといふ、わけにも參らないかも知れません、が之も方法によりますれば、左程困難な事ではなからうかと存じます。私の勤めて居ます神戸幼稚園では、此種な考から一週に二回つづ、玩具遊の時間を設けて居ます。それは誠に不完全では御座いますが、二階の陳列室二間をこれにあてまして、そこにも觀察的玩具なり、模倣的玩具なり、練習

的玩具なり、普通家で用ゐられて居る様な玩具を備へて置まして、其時間には其室に備へる玩具はどれでも幼児の自由で弄される様にして御座います。これを監督して見て居ますと、實驗するものもあれば、觀察するものもあり、樂隊も始まれば、芝居も始まるといふ風で、幼児等の喜は非常なもので御座います、幼児等はいつも此時間の來るのを待ちかねて居るといふ有様で御座います、これは幼児の喜びますばかりでなく、此遊によりまして、いろいろの利益が有る様に思ひます、即ち觀察する事によりまして、其物を知る事が出来るのみならず、物と物との關係、比較する事も出来ますし、實驗する事によりまして、經驗的智識を得る事も出来ますし、模倣する事によりまして、社會生活の狀態を知る事が出来ますし、注意を要する遊によりまして、注意力を養ふ事も出来ますし、いろいろ利益が多い様に存じます。此玩具遊

の方法としては全く幼児の随意に任せておく事も御座いますし、又時には適宜に指導して、統一的に遊ばせる事も御座います、先づ自由に遊んで居ますうちに、尤も幼児の好みます事は、樂隊遊、まりつき、繪本を見る事、獨樂まはし等で御座います。尤も此等の材料は折々とかへてやる事に致して居ますから、其材料なり又年齢によりまして遊方も違つて居ますが、大體先に申上りました、様な玩具は、年中いづれの幼児にも歡迎される様で御座います。此遊によりまして、著しき進歩を見ます事は、書方で御座います。此玩具遊がすんだ後保育室に歸り、書方をさせます、場合には非常に、思想の變化を見る事が御座います、次に統一の遊として幼児の喜びますものは、先年排方材料として當園で造りました所の、六色に分けた圓形の札と、種々の花形をあらはした札とが御座います、これらの色札なり花形札を、廣き机の上

にまいておきまして、其札のまはりに幼児等がならんで居ます、そしい赤ならば赤、青ならば青と申ますと、丁度カルタ取りの様に、各兒が其色なり、形なりを間違へない様に拾ひとり、最後に多く拾ひしものが勝ちとなるので御座います。此遊は餘程注意を要しまして、興味ある遊で御座います。又此遊によりまして、色なり形なりを確實に知覺させる事が出來ます。今一つは幼兒自ら造り出した遊で御座います、餘り上品な遊といふ事は出來ませんが、幼兒等が非常に興味を以て遊ぶ事で御座いますから、一寸申上ておき度と存じます。それはせんべやごとく申まして前に申上りました色札なり花形札なりをせんべいと致しまして、賣買致すので御座いますが、まづ最初に幼兒等は賣手と、買手の二組に別れまして、賣手の一部はおせんべいを机の上にならべて、店の用意を致して居ます間に、他の一部は樂隊道具をもつて、廊

下中を廣告して歩くので御座います。すると買手が店に行て、赤せんべいを下さいとか、櫻せんべいを下さいとか、もみぢせんべいを下さいとか云つて買ひます。賣手は其色なり形なりを、間違はない様に、渡さねばなりません。初めのうちは、色なり形なりがわからぬので、一々判定をしてやらなければなりません、四度五度とするうちに、色なり形なりがよくわかる様になりまして、保育室内で恩物材料を用ゐて、色や形を教へますよりは、此等の遊による方が風白くて、いつの間にか自然に覺えます。此外、今回京阪神三市聯合保育會に提出致しました、遊嬉頭字遊に付て一言致しますが、一組の幼兒を連れて、花園の中に遊び、澤山咲いで居ます花の中で、或一の花を思ひ「頭にアの字(葵ならば)付いた花其名は何でありますか」と歌ひますと、幼兒等は直に異口同音に葵と答へ、それが云ひ當りました時は大喜を致しま

す。後に又各兒も名々知て居る花の名を、此様に歌ひましては、互に名をあて、笑ひ興じます。又は家庭に歸ります時に、一輪つゝの花を各兒に與へまして、母に其名を當て、戴く様に話しておきます時は、非常に興味を生じます凡て花に限らず、萬物皆此様に致します時は、保母も亦幼兒等と樂しみを共にする事が出来まして、知らずく時を過す事が御座います、要するに保育は室内の外の外に拘らず、幼兒に充分の自由を與へながら之を指導し、指導しながら自由を與へる事は、多數の幼兒を扱ふ上に於て非常なる考を要する事と、苦心致して居ますから、既に御研究になつていらつしやる御方なり、又他によい御考の御座います方々には、御きかせを願度と存じます。

保育の一日

東京女子高等師範學
校材附屬稚園第二部

みどり

私の園では庭が廣いので可成外で遊ばせる事にして居ります、其中の一日を申上ませう。

六月二十日 攝氏七十二度

梅雨に入つてから十日目でした、雨も降らずといつて照りもいたしませんおまけにそよ〜と心持のよい風が有るのです。

何で此自然に親しますに居られませう。

葉末の露のまだ乾かぬ頃、私は一同を呼び集めて南の小山の麓に行きました。

そこには紫陽花が咲き匂へる小家が有りまして一帯は櫻や椎や檜等の大木がしつとりとした濃い蔭を印して居ます。

クロミバヤ、ヨモギヤ、カタバミなどの生ひ茂つた草原に續いて、ジャガイモヤ、キャベツヤや胡

瓜等の畑が有り、畑の向ふは鎮守の森で、上枝の枯れた樅や鳥の巢の有る榎なんどの間から青銅の屋根や、丹塗の柱などが見えて居ます。

私は一の組の方の強さうな男の子と共に、六脚のベンチを小家の前の木蔭に据ゑました。そして二の組や、三の組の子供に腰を掛けさせ、その他を其の後に並べて、さて一同の顔を見ました。噺何といふ可愛い顔で御座いませう。

目鼻口頬、凡て嬉しさが溢れて、私が何か云ふかと待つて居ます。

私「お早うございます、子今お早うございます」

「今日は此處で唱歌うたつたり、遊戯したりして面白く遊びませう。」(拍手喝采起る)

「さあ修身のうたうたひませう」

我子よかれと二度きれいに唱ひました。

「今度は彼蝶々のやうにきれいにお庭を舞ひ歩きませう。」

蝶々／＼の葉にとまれ

菜の花にあいたら櫻にとまれ………

と彼方此方にひら／＼とエブロン掛けし姿の可愛らしさ、中にはとまつた／＼と、小草にとまりたり、私にとまつたり二人手を引きあつたりするの、もあつて二度三度小家のまはりをめぐるつて、元の席に歸り、蓮花よ風車よ何よと倦む事なく唱ひました。

日頃唱ひふるした歌ながら其日は又格別の趣がありました。

○今度は皆で此お庭の草を探りませう。一本づつこんなように違つたのを幾つも／＼とつて見ませうさあ探つて入らつしやい。

△「ハイ」勇ましく答へて蜘蛛の子の散るが如く私一人を残して去りました。

絲や鈿や帳面などを用意して待つて居ますと、やがて一人かへり二人戻りして、一々報告しまし

たり、結へて下さいと申ますので一の組の子供には可成自分で敷へさせたり、糸で結へさせたり致しました。私は小さい子供のを敷へたりしぱつたりそれ／＼の敷や其様子やらを控へたり、暫くごた／＼致しました、けれども別に喧嘩もいたづらも致しませんでした。

控へ終つて見ますと、少きも二三種多きは十四五種に及びました。猶個人々に就いて見ますと日頃綿密な子は探り方もきれいで、種類も多うございませすし、亂雑な子は枯葉や根のついたまゝで且大小不同で敷も少うございませす。又小心翼翼とした探り方のや、大膽に抱へて來ますのや、倦み易いのや、わけもなくうろ／＼するのや、同種ばかり多く探つたのや。一旦探つては見たが蝶を追ふのが面白くて捨てたのや様々でした。で、あまりひどいには整理させましたり、力の餘つて居る子や、まだ探らぬ子等を集めて、

○「さあも一度探りませう。そして先生の探つたのと同じのが探れたかどうか較べて見ませう」と、又初めましたが、狡猾な子は私の後についてばかり居ました眞面目な子は隈なく探しますし眞面目の中にも遠征するのと、近所を丁寧に探すのとございました。

此處でも亦個性を知る事が出来ました。今度は二三普通の物の名を教へながら較べました。

○「これはクローバです。あひましたか△ハイ」

○「これはたんぼです。あひましたか」

△「ハイ私これで二度！」

○「これはあかぎです。」

△「どれ先生、これですか、うれしい三度よ！」

四度五度おもしろく此較する事が出来ました。

丁度お辨當の時間も参りましたので

○「さあ歸りませう」と申しますと、

△「先生お辨當？早いわねえ先生又あしたね」お手

水を使つて、きれいに拭れた食卓に著きました。

静に埴生の宿を唱つてやりましてから大きい子の

の世話で皆静にお辨當頂いて又外に出ました。

今度は砂場でお山をこしらへたりお池だの畑だの

作らへて先程とつた草を植ゑ比較的静に遊ばせて

一時におかへりに致しました。

兒童の救急手當法

醫學士 藤 井 季 旭

これはフレイベル會主催の小兒救急手當講習會の講義筆記を訂正せるものであります。實地に行つて見るか若くは繪畫を挿まなければならぬ様な術式は遺憾乍らこゝに省略しました。例へばシルベステル氏人工呼吸法の如きは其の一例であります。其の他講習の際にお話し致しました理論めいた所も同じく割愛することに致しました。

卒倒

卒倒そつたうといふのは、眼めを廻まわすことで、急に腦貧血なんびんけつが起おこる爲ためであります。

症状しょうじょう 身體しんたいの表面へうめんが蒼白そうはくになり氣きを失うしなふことがあります。其そのの起おこつて參まゐります時ときには、身體しんたいが何なんとなしに衰弱すびやくを覺おぼえ、不安ふあんを感じかんじ、苦くるしくなつて來き、眼前めまへが闇くらくなり、耳みみがガン／＼鳴なつて來き、物體たいがぐる／＼廻まはつて來きる。身體しんたいは冷汗ひやあせでびつしよりになり、顔かほ、唇くちびるは死人しにんの樣やうに青あせざめ、筋肉きんにくが急に緊張しまりが弛ゆるむ爲ため、卒然そつぜんとして大地だいちに倒たふれるのであります。卒倒そつたうの名なはこれから起おこつたのであります。又また徐々じょじょに倒たふれることもあります。

此このの時卒倒者そつたうしやの四肢ししを觸ふつて見みますと、何等抵なんらてい抗かうを感じかんじません、全く弛緩ししくわんして居ゐります。呼吸こきふはあるか無なしかに微弱びじやくに、脈みやくは觸ふれにくい位くらゐになります。

卒倒中そつたうちゆう多くは意識いしきを失うしなひ、痛覺いたみ、視覺しかく、聽覺ちやうかくは

全く止とみ、瞳孔ひんこうが開ひらいて光ひかりをあて、見みてもそれが小さちひくはなりません。

斯かういふ有あり様が數秒すうべうから數分すうぶん續つづいて、徐々じょじょに復またた眼めをあき、呼吸いきを吹ふきかへし、顔色かほいろが赤味あかみがさして來きて、意識いしきが確たしかになつて來きます。

原因げんいん 千差萬別せんさばんべつの原因げんいんがありますが、急きふに血ちを失うしなふた時とき、身體からだの内うちの水みづ分ぶんを失うしなつた時とき、心臟病しんぞうびやうや神經過敏症しんけいぐひんしやうに罹かつた時ときに起おこり、劇場げきじやうや寄席よせの樣やうな多人數たにんずの寄合よりあつて空氣くうきの悪あしくなつた時とき、着物きものを堅かたくしめつけて呼吸いきがしにくい時とき、其その他た長ながい間ま起おこ立たして居ゐるとか、行軍かうぐんの時ときとか、酷ひどい痛いたみとか、驚おど愕おどろとか、恐怖きやうふとかの樣やうな精神感動せいしんかんどウによつて誘發いざはつせられます。

其手當そのてあて 身體しんたいを水平すゐへいにし、頭部とうぶを下さげ、衣服いふく、帶おびなどをゆるめ、窓まどを開あけ、障子しやうじ、唐紙からみをあけ放はなし、家いへの内うちならば冷すずしい部屋へや、戶外そとならば木蔭こかげの所ところへ移うつします。

輕症の場合には皮膚や粘膜を刺戟して呼吸運動に心臟の機能が回復する様に努力します。之を行ひますには顔、胸に冷たい水を灌注し、冷水、醋水、ブランデーの類で、額や額顫部を摩擦し、手掌、足趾を刷毛の類で摩擦するのであります。重症の場合には以上の手當の外、人工呼吸法を行ふ必用があります。人工呼吸法は後に申上げることゝ致します。

卒倒の所稀に嘔吐が來ることがあります。此の時は上體を少し高め、頭を少し側方へ、濕らしたガーゼを指に巻きつけて卒倒者の口腔、咽頭を拭ひます。

卒倒者が氣がつき、物をのみ込むことが出来る様になつてから茶殊に濃いよいお茶、葡萄酒、ブランデーの様なお酒類、 Hoffman 氏液(酒精一分、エーテル三分よりなる液體)を飲ませます。Hoffman 氏液は大人ならば十滴から十五滴計り、小供

ならば年齢相當の分量例へば七、八歳の小兒ならば四、五滴、十一、二歳ならば七、八滴を砂糖水の中に滴下して飲ませます。

氣が附いたならば徐々起きなければなりません。急に起しますと復た卒然する懼があります。

人事不省

これは卒倒と同じ性質のもので、卒倒のもつと酷くなつたのが人事不省であると云つてよいのであります。

症狀 人事不省に陥つた者は、腦の機能が全く止つて意識がなくなり、それが一時性のこともあり、又長く續いて昏睡の状態に陥つて、呼吸の有り無しさへも不分明で、殆んど死人同様と云つてよいやうになつて來ます。これがもつと酷くなる、即ち假死に陥るのであります。人事不省の者は眼が見えず、耳が聞えず、痛い、痒いの感覺がなく、身動きもせず、死人の如く横つて昏々

として長夜の眠に陥るので、試みに其の手足を持ち上げて手を放せば棒でも落ちる様にばつたり落ちるのであります。唯微弱な呼吸、脈搏によりて生きて居ることがわかる位であります。

原因 其の原因には、いろいろあります。けれども、主として、(1) 卒倒より来るもの、(2) 高い處から落ちた時又は廊下の廻り角等で衝突して頭を打つた時に起る脳震盪、(3) 熱のある傳染病、(4) 癎變、(5) 體內に生ずる毒の爲めの中毒即ち自家中毒例へば糖尿病、腎臓病、(6) 酒の中毒等から起るものであります。

其手當

種々の病氣により人事不省が来る故一定の手當がありませんが、概して申しますると

(1) 容勢を正しくし衣服の緊迫を緩るめ顔色が蒼白であれば頭を下げ、反對に顔色が赤ければ枕を高くすること、(2) 吐氣のある時は頭を横にするこ

と、(3) 身體に傷の付かないよやにして、疊の上になじかし、(4) 呼吸がとまり相なら人工呼吸を施すのであります。

尙、脳震盪より來た人事不省に就いて、特に注意すべきことは、前にも申したやうに、高い處から落ちた時廻り角でぶつかつた時等に起るので、酷く目を廻して、必ず嘔吐を催します。故に一般の、人事不省の場合には、戶外なれば木蔭の場所に移して、其處で手當をすることが大切であります。が、脳震盪の場合にはこれと反對で、決して動してはならないので、倒れた其の場所で手當を施さなければならぬのであります。そして、上向に寝かせて頭を高くし、帯をゆるめて、血の出る處や、骨の折れた處の有無に注意して、若しありましたならば、相當の外科手當を施さねばなりません。又、頭は氷嚢か冷水器法にて冷すことが大切であります。一般に人工呼吸は、身體に傷のない場

合に限つて行ふのであります。

人工呼吸法

人工呼吸とは、自然には出来ない呼吸を人の助けによつて、體内の呼吸をなましむるものであります。其の方法には、ホワルド氏の法といふのもジルベステル氏の法といふのと二つあります。普通に行はれて居るのは第一のホワルド氏の法で、仕方も簡便で、一人でなし得る方法でありますから、こゝでは第一の方法に就いて説明し、第二の方法は説明だけでは稍々難解の處もあるように思はれますから省略する事に致します。

先づ、患者の衣服をゆるめ、又は脱がせ上向に寝かせて、腰と肩との間にある窩みの處へ、衣物をまるめて入れ、身體を水平にして置きます。これから人工呼吸を施すのであります。がそれより先きに舌を引き出し、手巾か何かで縛つて頤の所へ固定して置くのであります。

次に施術者は患者の上にまたがつて、拇指を心窩部に當て、他の指は肋骨弓の處へ當るようにして、二秒おき位に其の處を壓しつけるのであります。つまり壓しつけて居る時間が二秒位、離して居る時間が二秒位づつで、都合一分間に十五回位になる譯であります。

總て人工呼吸は、息が聞こえるようになるまで中止してはならないので、醫者の來るまでは一時間でも二時間でも續けて行はなければならぬのであります。

假死

假死に陥る原因にも種々の場合がありますけれども、假死の患者と云ふものはさう澤山に起きるものではなく、或は皆様とは没交渉の事柄かも知れませんが、然し一生の間には、何時さういふ場合に遭遇せないと限らないものですから、一通り説明を試みて置きます。

もと／＼卒倒と人事不省と假死とは、原級、比較級、最上級の地位にあるものであります。けれども、此の三つは恰度輪のようになって居まして、何處が卒倒と人事不省の境なるか、何處が人事不省と假死との境なるか明らないのであります。假死が一般上になりますと、いよ／＼本當の死になるので、これを醫著の方では眞死と申して居ります。

症狀 假死の現象は千差萬別であります。全體から云ふと、息が絶え／＼になつて、殆んど氣息がないと云つてもいひ位に達して居ります。脈は絲脈と云つて極く微かなものが手に感ぜられるばかりであります。假死の感覺の有り無しを検査するにも藥を呑ましたり、蠟燭の蠟をたらしたりして、辛じて知ることが出来る位であります。

假死と眞死とを見定めるには、全くに死に陥つた時の有様を申上げて、それから推して考へて頂

きます。眞死には第一死斑といふ青赤色の斑點が、身體の下に向つた方に生じます。第二には手足が固く強張つて居る、これを死後強直と云つて居りますが、ある宗教では死骸へ土砂をふりかけるのは、此の死後強直を除く爲めに外ならぬのであります。

第三の證候は眼であります。眼の緊張が失はれて、指で壓すと、指の跡が附きます。第四は腹部が腸の腐敗の爲めに、穢い色を呈します。又、一種の厭やな臭氣が發します。これを死臭と云つて居ります。總て斯ういふ腐敗が眞死に陥つた證據なのであります。かうなれば、もう蘇生の見込みはないのでありますから、假死の間に於いて、出來得る限りの手當を施さなければなりません。

其の原因

假死の原因には種々ありますけれども、其の主なるものは、(1)溺水、(2)首く／＼り、(3)首を締めら

れた場合、(4)土の下に埋られた場合、(5)有毒の瓦斯を吸ふた場合、(6)凍へた場合、(7)電氣に觸れた場合、(8)隔病、日射病、熱射病、(9)やけど、(10)物を呑み損つて氣管の方へ入つた場合等でありまして、小學校や幼稚園では殆んどないと云つてよいのでありますけれども、然し決してないと云ふものではないのでありますから、其の手當を一通り申上げて置きます。

(1) 溺 沒

症狀 これは水や土が氣道へ入つて、息がつかつた爲めに起る假死であります。顔が紫色がかつた赤色に變じて來ます。この色をチアノーゼ (Cyanose) と云つて居りますが、恰度寒い風に當つた時に變つて來る唇の色のようなのであります。眼の周圍には青斑が出來、唇は紫黑色になり、皮膚の光澤を失ひ、口や鼻の中に泡沫を滿ち氣管や肺や、胃に水が這入つてゐる。水の中へ落ちて

から氣を失つたものだと、口や鼻から水を吐き、水に落ちない前に氣を失つたのは水を吐かないものであります。此の者は顔色が蒼白く、弛緩見え、口中には少し許りの泡沫を含んでゐる。水を呑まない方が加ける望が多く、又、時間によつて助け得る望も違ふのですけれども、然し三四時間入つて居ても、未だ眞死に陥らないことが往々にあるのですから、出來るだけの手當をせなければならぬのであります。人工呼吸の如きも四時間以上は、間斷なく續けなければなりません。そして尙、息をふき返へさなければ、その時は本當に死んだものと思つていゝのであります。

其手當

水から引き上げた者を取扱ふ上に要する注意は衣類を脱がして、心窩部を取扱者の膝に當て、頭を下げて施術者の手掌を溺没者の額にあて、首をそらせ、右の手で溺没者の脊を壓しつけるので

あります。さうすると、呑んで居る水を吐き出しますから、今度は人工呼吸に移るのであります。勿論施術に先ち、口中や氣道に這入つた泥を清潔に拭ひとつて置かねばなりません。人工呼吸を行つて呼吸が出来なくなつて來ましたなら、今度はフランネルのやうな衣類で全身を摩擦するのであります。その擦り方は、手足や頭の方、即ち心臓に遠い末梢部から心臓の方へ向つて、逆に擦るのであります。そして、足の所へ湯たんぽ、温石をあて、だん／＼氣息が確になつて來、物が飲める様に氣がついた處で濃い茶なり、コーヒーなりを吞まするのであります。悪い茶は餘り效能がありませんけれども、玉露の様な良い茶には、コフェインといふものが多量に含まれて居まして、これが心臓には非常によい藥なのであります。

(2) 縊首

縊首といふのは索繩を頸に纏絡けてぶら下り、

自分の重み頸を緊扼して窒息して死のを云ひます。又扼首と、絞首との二種があります。扼首とは手や物で喉頭を壓しつけて絶息せしむる場合で、絞首とは繩で締める場合をいひます。日本では小學校生徒の自殺などは殆んどないのでありますが、西洋ではこれが非常に多いのであります。參考のため其の手當を一通り説明して置きます。其の手當先づ、木の枝などへ繩を掛けて首をく／＼つて居る場合でありますと、縊首者を一方の手で確實抱いて置いて繩を切り放すのであります、其の儘繩を切りはなしてはならないので、繩を切りはなすと往々身體に傷がつきますから、さういふ事のないやうに十分注意が必要です。次に爲すべきことは、粘膜を刺戟することです。刺戟とは一の機關を外からつゝいて働かすやうにすることを云ふのであります。それには紙捻のやうなもので鼻腔をつゝいたり、確砂精を

手巾にたらしめて鼻の所へ持つて行き筆の様なもので喉頭をくすぐり、足の腓腸へ芥子泥を貼るのであります。其の他氣通しのよい所に移し、上身を少し高くして臥かせをして人工呼吸を盛んに行はなければなりません。

(3) 埋 沒

これは山や、家が崩れたりした爲めに其の下になりて氣を失ふのであります。これは出来るだけ早く掘り出すことは勿論、次に口や鼻や耳や眼の中に入つて居る石礫を綺麗に出してしまつて、骨の挫けた處がないかといふことを、十分に検査して、さういふ傷害のないことを確めてから他の場所へ動かすことが大切であります。骨の挫けて居るのも氣附かずに、無暗に動しますと、折れて居る骨が食い違ひになつて、治療に困難を來すのであります。次に人工呼吸を行ふのであります。

(4) 瓦斯に因る窒息

これは有毒なる瓦斯を吸つた爲めに起るものであります。又燈用瓦斯のみではなく、地下室、古井戸、酒藏等の中へ入つた場合にも、よくあることなのであります。勿論、燈用瓦斯の活栓を開けて置いた爲めや、ストーブの爲めにも毒せらるることが、まゝ有ること、佛蘭西のゾラと云ふ有名な小説家が夫妻共に、其の爲めに生を失つたといふこともある位でありますから、瓦斯の活栓は毎日非常に注意をして、嚴格に鎖して置かなければならぬのであります。

瓦斯の爲めに窒息する者は、初め呼吸が弱く、頭痛がして來て、目が廻り、遂には運動の力もなくなり、感じもなくなります。そして顔がはればばつたくなつて、紫色に變じて來ます。眼球結膜が充血して、瞳孔が黒く變色して居ります。そして脈がとぎれ／＼になつて來ます。總て脈の微かになつてとぎれて來るのは、心臟の弱くなつた證據

で、又脈のとぎれるのを醫者の方では結代と名けて居ります。脈がだんくと少くなつて來すと、仕まいには瘧瘵を起して、假死に陥つて遂に眞死に到るのであります。

有毒瓦斯の籠つて居る室へ入るには、室へ入る前に十分深呼吸をして息を止め、酢を浸したハンカチを口に當て、先づ第一に戸若しくは窓を開くのであります。燈火其の他の火の氣のあるものを持つて入ることは絶対に可けないので、ダビー氏のランプといふような特別の仕掛けをしてあるものは差支ありませんが、普通の家にはこれを備へてあるといふことは餘りありませんから、總て火を持つて入ることを嚴禁した方がよいのであります。

其手當

先づ第一に窒息者を室外の空氣の流通よき場所へ出し衣類を脱がせて、顔や胸に水をふり掛ける

か、又は冷水の纏絡を施すのであります。臍腸部や、背部や胸部に芥子泥を塗り、又礮砂精の様な臭の強い薬をかせます。若し室外へ運ぶことの困難な場合は室内の空氣を出来る限り入れ更へるやうにせなければならぬのであります。

次に、頭を高く寝かし、若し氣息が絶えなくになつて居ましたならば、人工呼吸を施すのであります。それで氣がついて來ましたならば、今度は前と同じく、いろいろの興奮劑を吞ましめるのであります。茲に最も注意すべき事は、患者を眠らせないやうにすることでありませぬ。或は聲を掛けるとか、お茶を吞ますとか、葡萄酒を吞まするなどして、努めて眠らせないようにせなければなりません。

以上は燈用瓦斯の洩れた場合であります。古井戸の中へ落ちた者を助けに入るやうな場合には古井戸の底には、いろいろな瓦斯が溜つて居るも

のですから、先づ其の有害瓦斯を發散せしめてしまふことが必要であります、それには、傘のやうなものを繩に結びつけて、上げ下げして空氣の流通をつけて、それから入るやうにしなければなりません。

次に、梯子を掛ける事は勿論三筋の繩を用意して、一は井戸へ入る人の背をたすき掛けに結び、一つは自分の手首を結んで置き、一つは落ち人をくゝる爲めに要する太い繩であります、又、手首を結んで居るのは、引き上げる時の報知其の他の用をなすものであります。引き上げてからの手當は前と同様であります。

(5) 凍 涸

寒い時に戸外へ出た爲めに死ぬといふやうなことは普通の人には餘りないのであります、非常に疲勞をして居る人とか、酒に酔つて居る人が、寒さに襲はれながら、道に倒れて眠つてしまふと

か、或は探險等に行つた人になんかあることでもあります。これは手、足、唇、鼻等身體の末梢部分が紫色に變色して、四肢がこぼつてゐて、耳翼、鼻尖、指趾はまるで氷塊の様につめたたく、堅く、脆くなつて居ります、脈が僅に觸れる位のもので、呼吸が微かになつて居ります。

其の手當

此の場合に、一般の人から考へますと、直ぐに温い室の中へでも入れて、身體を温めてやればよいと思ひませうけれども、それは反つて可けないので、この場合には、衣類を脱がせて、雪の中へ埋めて、顔面を除く外は悉く雪で掩ふのが一番良法なのであります。たゞ此の時に注意すべきは末梢の部分が凍えて居る爲めに、傷が付き易いので、其の取扱を町重にすることでありませう。

かうして暫く雪の中へ埋めて置きますと、強張つて居る身體が段々とやわらいで來ます。すると

今度は水風呂の中へ入れるのであります。温度は攝氏十五度位が一番適當で、恰度水道の水よりも少し温い位の温度であります。若し水風呂に入れることが出来なければ、同温度の水で全體を濕布するのであります。そして二時間か三時間續けて置く間に、だん／＼温度を高めて来て、攝氏の卅度位にする。今度は水から上げて、寢床に入れるのです。これにも温い床は可けないので、冷い床に入れ、そして全身を冷いもので磨擦します。かうして段々と温めて行つて、室の温度も共に、普通の温度に復して行くようにせなければなりません。これで氣が確になりましたならば、今度は葡萄酒その他のアルコールを含んだものや、お茶コーヒー等の刺戟劑を吞ましむるのであります。凍涸は數時間或は二三日經つた後に氣のつくことすらもある位ですから、成るべく永く手當をすることが大切であります。

新らしい玩具

九段の偕行社で懇親會のあつた歸りに、一寸フレーベル館の店さきへ立寄つて見ました、いろ／＼新らしい玩具が出来て居た中に二つ三つ目にとまつたものを御紹介しませう。

巻出掛圖——幼稚園でお話をする時に、繪の方でもお話と共に、次から次へ繰り出して呉れる様に出来たらとば、誰も屢々思ふことです。現に岸邊氏の東洋幼稚園で、此の御工夫の出来て居るのを拜見したことがありました。此の巻出掛圖は即ちその需用に應ずるものであります。巻出用の框は額縁風に出来て居て體裁も可なりよし、堅牢にも出来て居ます。その定價壹圓。之れに使ふ巻出圖は、其時出来て居たのは犬小尉の五枚づゝき一卷でしたが、肉筆で布表裝がしてあつて定價貳圓。繪は注文次第どんなものでも調製いたしますといふ話でした。

球投競争——之れは布製の衝立狀のもの、中央に孔をあけ、その後ろが益になつて居て、之れを狙つて紅白の小球をなげる。その布にベースボールのキャッチャーの繪が大きく描いてあつて、その孔の處が、丁度ミッドで球を受ける態になつて居ます。又室内でも外でも、自由に運搬し得るようになつて居る處が便利です。甲種は六尺に四尺の大きさまで五圓。乙種はずつと小形になつて五十錢。

大形ま、ごと用具——臺所道具から膳碗類一揃で九十五錢、在來のよりは大形な處が新らしいのです。

雜 錄

關 西 行

(京、阪、神三市聯合保育大會)

逢坂山で目がさめた。もう關西と思ふと今日の大會の景況がどんなだらうかと思はれる。我國保育會第一の盛會とはかねて聞いて居たが、其の盛んな、多數の熱心家の集會で、日頃の考へを披歴し得ると思ふと楽しい。且つまた斯界の多くの先輩や、熱心家と、我國幼兒教育の爲に一層協力し得るの機會が與へらるゝのだと思ふと尙うれしい。そんなことは事實無いことであると信ずるけれども、あの低い箱根の山を劃りにして、我國保育界の西と東の提携がまだ充分でないといふ様ことが、折々耳に入るのは悲しいことである。全國の幼稚園を指折り數へて見た處で其の數は知れたものである。それがしつかりと一致協同の運びになつて居ないといふことは、随分可笑しなこ

とである。これは是非一日も早く協同協和の形を實現しなければならぬ。皆々の心の中にはその希望は常にあることである。たい形になつて現はれて居ないだけである。今度此の三市聯合大會へ自分の招かれてゆくことが、その實現の進捗に一步でも半歩でも加へ得る機會となるならば、如何に愉快なことだらうなどと思ふ。——汽車は今京都を過ぎた。——今迄の幼稚園教育は、國家の教育系統の中に、いはゞ必然必須の位置のしつかりと認められて居ないようなものである。そこで全體の統一といふやうなものが一つもついて居ない。勿論全國すべての幼稚園が同じ型にきまらなければならぬといふことはない。そんなことは寧ろ反對である。各地方、各都市、それ／＼特色ある幼稚園が無くてはならない。併し、それが一つの中心精神に於て統一せられて居るといふことは互の進歩の爲に大いなる利益だと思ふ。國民全體の意識の上に、幼稚園教育はかういふことをして呉れる所だといふ、明瞭な積極的な一般的な認識を有して貰ふ爲には、もつと統一せられた教育

にならなければならぬと思ふ。銘々區々まちまちに勝手な説や流派を立て合つて居るのでは駄目だと思ふ。——汽車は大阪を過ぎた。——全國至る所に先づそれ／＼の保育會が出来て、それが相互に大結合をして、研究の上に、事業の上に、相助け合ふ様にならなければならぬ。現に獨逸のフレール會からフレール會のこと、共に我國幼稚園の狀況のことを問ひ合はせて寄越して居る。何と報告してやらうか。日本には全國の幼稚園の大聯合といふものは未だ一つもないと答へてやらなければならぬか。よき幼稚園の一つ／＼は澤山あると報告し得る。併し日本幼稚園聯合會から獨逸幼稚園聯合會に宛て、の報告はまだ出来ないなどと思ふ——汽車は神戸の三の宮に着いた。

* * * * *
三市聯合大會は六月の二日、神戸市の縣立高等女學校で開かれた。京都府、大阪府、兵庫縣内の各幼稚園保母諸君は勿論、その近縣、遠くは岡山、廣島、四國、東は静岡其他からも篤志家の來會があつて總數千に近い盛會であつた。それに奈良女

子高等師範學校附屬幼稚園主事雀部教授、大阪市保育會長の府立女子師範學校長大村氏、京都市保育會長の府立女子師範學校長武井氏。其他兵庫縣神戸市等の教育當局者の諸氏も多數出席せられて居たのは、此の大會が例年一般の教育社會に如何なる印象を與へて居るか、察せられて誠にうれしく思つた。神戸市保育會長小磯氏の開會の辭のもとに開會せられて來賓諸氏の祝辭につき、余の講演で午前の會を閉ぢ、午后更に開會、次の諸問題につき研究討議せられた。

一、土地の狀況により二部保育を施すの可否

説明 二部保育とは小學校に於ける二部教授の如く園児を二部に分ち午前中に保育を受くるものと午後には保育を受くるものとを設くるをいふ。

京都市保育會提出

一、小學校の本科正數員たる資格を有する公立幼稚園の保母に對し年功加俸を支給せらるゝ様その筋に建議しては如何

大阪市保育會提出

一、幼稚園に於ける色彩の名稱及び手技品の名稱を如何なる程度迄小學校と連絡せしむべきか

例 色彩に就て。緑を青といふが如き、手技品に就て。織紙

を組織といひ、禮紙を折紙といふが如き

大阪市保育會提出

一、各幼稚園に於て目下適當と認められ且つ永續せる遊嬉の種類と其の方法の概略を承りたし

(取纏めの上各市へ回覽の積りなれば、成るべく各園に於て之を記載せられ御持参あらんことを希望す)

神戸市保育會提出

各市の方々が盛に説も出され、意見を闘はざる處は、他の保育會に多く見られない活氣に富める光景である。第一の問題は先づ否とする方に決せられ、第二の問題は「小學校の本科正教員たる資格を有する」といふ句を削つて殆んど満場一致の可決と見られた。時間の都合で後の二問題は宿題とせられた。此の活氣縱横なる光景に敬服した自分は、更に次の十分間談話に於て、關西保育界の保姆諸君の斯界の爲に熱心なる雄々しい態度にいよ／＼敬服した。各市二名づゝの豫定であつたさうなが、時間の都合で一名づゝにせられたのは甚だ残念であつた。大阪の八木庄三郎氏は幼稚園に於ける男女共同保育から生ずる疑義に就て注意を述べられた。京都の森こいと氏は其の實驗から花と幼児上の關係について細かい觀察を語られ

た。次に神戸の宮崎しか氏は保育の苦心と伊勢大廟に幼児の幸福を祈られた經驗とに就て、優しいすゝめを話された。お二人とも若い方であつたが、千に近い聽衆を前に、靜かに明瞭な語調を以て其の所信を語られたのは實に敬服にたえず感じた。之れで一と先づ會を閉ぢて、一同運動場へ出て左の通りの遊嬉の交換があつた。

一、電車と自動車

一、色合せと盲目鬼事

一、花摘み

一、進め

一、頭字遊

一、おだんご

大阪市保育會提出

京都市保育會提出

神戸市保育會提出

之等はいづれ各保育會の承諾を得て本誌上にも御紹介致し度いと思ふ。

その夜は神戸市保育會の方々に其他の地方の方々をも加へて茶話會が開かれた。之亦愉快に有益な會であつた。かくて此の大會は終つたのであるが、かねて噂に聞いて居たよりも、實は大抵豫想して居たよりも、その盛大に、有益に、楽しいこととに驚いた位であつた。之れ實に今年の主催地神

戸保育會の小磯會長、望月園長、榎本園長、その
他の方々の勞による處大なるを思はざるを得ない
と共に來年の京都の會も、來々年の大阪の會も、

またその翌年の神戸の會も、その次も、その次も
年と共にいよゝ盛大を加へられて、三市聯合保
育大會の永きゝ發達を心から祈つてやまざるも
のである。(倉橋生)

本會六月例会

本會六日の例会は客月廿二日午後二時より東京女子高等師範
學校附屬幼稚園にて開會、豫定の通り理學博士坪井正五郎氏の
「海外旅行中蒐集せし兒童使用品」と云ふ題で、博士が今度の漫
遊中に御集めになつた、澤山の珍らしい玩具を陳列され、一々實
物にて、いろゝ有益な、そして面白い御講話や説明が御座いま
した。西洋の玩具と云ひましても、無暗に精巧を極めた人工的
なものではなく、何れも原始的な面白みに富んだそれゝ特色のあ
る玩具でした。而も大きなテパートメントストアの三階で御求
めになつたのでなしに、狭い裏通りの、見そぼらしい小間物店や、
霧深い大會の夜、街燈の下に並んで居る露店などを、あちこち
と御探しになつたといふ、眞に博士でなくては得られないような

珍らしいものでした。玩具の得難いものであるのを思ふと同時に
に、博士の御苦心も偲ばれるのでした。本會の爲めに態々此の玩
具を御持ちになつて長時間の御講話下さつた事は誠に光榮とす
る處であります。

本會 主催 兒童救急手當法講習會の終了

客月來水曜日東京女子高等師範學校内にて開催して居り
ました該講習會は、醫學士藤井秀旭氏内科的方面、醫學士渡邊房
吉氏は外科的方面に就いて、いろゝ有益な講習がありました。
本月の三日で豫定の講習を終りました。兩學士共に御多忙中にも
拘らず、本會の爲めに大切な時間を御愛割下さつたことは感謝に
堪へない次第であります。同講習の筆記は本紙上に掲載の御承諾
を得まして、藤井學士の分は既に本號より連載いたしました。

三越オモチャ會

三越呉服店內兒童用研究會にては、いろゝな善い玩具を撰定
して十二ヶ月の季節に準じ、毎月一圓の會費にて、幾つかの玩具
を配布するさうです。善いおもちゃは澤山にあり、又新に遣り出
されても、それを家庭に知らせるのが困難なので、始終何とか工
夫もがなと思つて居ました。そこでかうした會の開かれたこと
は、一般の家庭にとつても、よい催しだと思ひます。充分尙ほ其
の配布されたものに就いては、研究して見度いと思つて居りま
す。

本會夏期講習會

本會夏期講習會は前號豫告に少し變更を加へ、異常兒童問題につき、斯學の大家富士川ドクトルの御講義を乞ふことにしました。此の問題は普通教育に於ては疾くに注意せられて居りますが、幼児教育者も此の方面の知識を有するの必要あることは次第に有識者の認めらるゝ處であります。本會茲に率先して此の問題を幼児教育夏期講習會に加へましたのは、此の新要求に應ずるものと信するのであります。殊に富士川氏の如き斯學の大家にお願ひすることを得ましたのは當期夏期講習會の密に誇りとする處であります。又赤津氏の黑板畫講習は前號にも申上げた通り、其の經驗と技能とによつて此の最も必要な實地練習に對して、充分の満足を與へらるゝこと、信するのであります。又地方より毎年多數の方が出京せられますが、その方々の爲に、いつも適當の宿泊のお世話を申上げ得なかつたことを始終遺憾として居りましたのに、本年は非常に好都合の場所を得まして、御婦人方の爲に御安心を以て十日間の御滞在の便を供し得ることになりました。之れは人数(凡そ五十名位)に限りあること故御希望の方はなるべく早く御申込下さる様願ひます。命講義の外出来るだけ有益にとの趣向も考へて居ります。全國に涉り多數の方が御來會下さることを切望にたへぬのであります。

本誌定價

一冊郵税共金拾一錢 六冊前金郵税共六拾錢
拾二冊同金壹圓貳拾錢 郵券代用 一割増

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に御送本致します。(振替口座東京一七二六六番)

本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます

(庶務上保姆紹介に關する件をも含む)の御手紙は
東京市小石川區久堅町七十四番地フレーベル會事務所宛

會計事務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園内、
雨森劍宛

本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下千駄
谷八七八倉橋惣三宛

明治四十五年七月一日印刷
明治四十五年七月五日發行

編輯兼發行者 倉 橋 惣 三
東京市本所區番場町四番地

印刷者 平 井 登
東京市本所區番場町四番地

印刷所 凸版印刷株式會社本所分工場
東京市小石川區久堅町七十四番地

發行所 フレーベル會